

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校定時制の課程は昭和 23 年の設置以来、「明るく生き生きとした学校生活を通して、真理と平和を愛し、勤労と責任を重んじる、心身共に健全な社会の有為な形成者の育成」を不易の教育目標としている。

この教育目標を達成するため、次のような特色を有する学校づくりに取り組む。  
「ゆっくりとしっかりと学べる」学校づくりや、「安全で安心な」学校づくりの推進を図り、入学から卒業まで生徒の成長を保障できる教育を追求する。また、様々な人たちが学べるセーフティーネットとして「入ってよかった」学校づくりをめざす。

## 2 中期的目標

## 1 ゆっくりとしっかりと学べる学校づくりへの取組み

## (1) 見える学力（教科科目の領域）の向上への取組み

- ア 新しい教育課程を実施し、確かな学力を身に付けさせる。
- イ より分かりやすい授業への改善や研修を通じて授業力をさらに向上させる。
- ウ ICT委員会を中心に校務のICT化やICTを活用した授業を充実させ、授業の質的転換を図る。
- エ 効果のある少人数展開・TTによるきめ細かな授業を継続発展させる。
- オ 生徒の授業理解度と授業評価をさらに向上させるとともに、授業公開により保護者の評価も取り入れる（理解度3年間で30%up）。

## (2) 見えない学力（教科科目以外の領域）の向上への取組み

- ア 生徒の基本的な生活習慣の確立を指導し、規範意識や学習習慣の形成を促す。
- イ 中退、留年、長欠の防止を図る。特に低学年次での対応に留意する。また生徒が学校とのつながり（絆）を深める指導に心がける。
- ウ 図書館の活用を奨励し、読書活動の推進を図り、読書好きの生徒を育成する。
- エ 自尊感情（自己肯定感・自己有用感）を育成するとともに、良好な人間関係づくりを指導する。

## 2 安全で安心な学校づくりへの取組み

生徒に居場所が提供できるよう安全で安心な学校への取組み

- ア 健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒の健康増進と安全確保を推進する。特に災害対策に留意した取組みを工夫していく。
- イ 問題事象等には、全教職員が一致した協力体制を構築し、迅速で適切な対応を図る。
- ウ 人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。
- エ 教育相談と配慮を要する生徒支援の充実に努める。
- オ 教育環境及び大規模から小規模に至る施設設備の保全と充実を図る。
- カ 家庭、地域との連携を推進し、開かれた学校づくりに努める。

## 3 入ってよかった学校づくりへの取組み

楽しく充実した高校生活を送り、入ってよかったと思える学校への取組み

- ア 全学年でキャリア教育や進路指導を充実させ、自己実現の意欲を喚起し、進学・就職を希望する生徒の進路決定率を100%になるように努める。
- イ 志学の実施と成果の検証を行い、3年間を見通した計画を確立する。地域清掃などの社会貢献的な体験も継続する。
- ウ 特別活動や行事の充実を図ることで生徒の参加意欲を高め、学校への帰属意識や仲間・友達づくりの場を広げる。
- エ 部活動や生徒会活動を活性化させる。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>☆学校教育自己診断の結果と分析</p> <p>今年度は、生徒用・保護者用・教職員用の3つのアンケートを行った。そのうち、生徒向けアンケートは、5つの視点に分けて実施した。</p> <p>①学校の魅力・・学校へ行くのが楽しい(65.6%) (昨年78.4%) (一昨年65.7%) 相談できる先生がいる(69.0%) (昨年76.8%) (一昨年66.7%)</p> <p>②授業理解・・授業はわかりやすい(77.4%) (昨年85.5%) (一昨年71.0%)</p> <p>③安心して学ぶ環境・・ 先生の指導に納得できる(73.6%) (昨年81.1%) (一昨年72.4%) 命の大切さや社会ルールを学ぶ(57.6%) (昨年72.4%) (一昨年54.7%) 人権HRや講演で意識が高まる(63.8%) (昨年67.0%) (一昨年52.6%)</p> <p>④キャリア教育と特別活動・・ 学校行事が工夫されている(75.6%) (昨年78.6%) (一昨年64.0%) 将来の進路や生き方を学ぶ機会(67.4%) (昨年71.6%) (一昨年69.9%)</p> <p>⑤生徒のルール順守・・ 遅刻欠席をしない(69.1%) (昨年71.4%) (一昨年68.8%) 学校のルールを守る(79.4%) (昨年85.0%) (一昨年77.7%)</p> <p>昨年度、種々の取組みを行い、生徒からの評価が良好だったが、今年度はLHR活動で生徒への働きかけが不調に終わったためか、評価は良くなかった。遅刻についての取組みを強化しつつあるが、生徒の意識は大きく変わらなかった。回答数は増加したが、保護者からの評価では、進路指導と落ち着いた学習環境の整備を求める意見が見られ、次年度以降の取組みが必要である。今後は学校に行くのが楽しい生徒を増やし、保護者からの一層の信頼を得るため、LHRの充実、授業を大切にすることを意識を持たせる指導を、学校全体として取り組み、展開していく。</p>	<p>第1回 (6/25)</p> <p>授業見学を行った上で、今年度の学校経営計画の内容と重点事項などを説明した。</p> <p>○授業見学から——積極的に授業に取り組む姿勢が見られる反面、スマホを触っている生徒も見られた。わかりやすい授業への取組みをさらに進める必要がある。</p> <p>○学校経営計画について——学校の現状と取組を資料を用いて説明し、計画の了承を得た。</p> <p>第2回 (10/23)</p> <p>授業アンケート(6月実施)、教職員用学校教育自己診断(10月実施)の結果について説明を行った。引き続き、各分掌より現在の取組み状況を資料を示して説明した。進路指導部が中心となり行う企業訪問の取組み、生徒指導部が取組む喫煙防止指導と遅刻指導、生徒にとっての保健室が果たしている役割などを説明し、意見交換を行った。携帯・スマホについて、トラブルが発生している事から、生徒への指導について意見をいただいた。</p> <p>○授業アンケートから——ICT機器の積極的利用などで、授業の改善が生徒の評価にも表れた。ただ、授業内容が自分の将来に生きると考えていない生徒もあり、学校に対する意識を高める必要性が示された。</p> <p>第3回 (1/25)</p> <p>保護者・生徒の学校教育自己診断(10月実施)、第2回授業アンケート(11月実施)の結果を説明した。</p> <p>○学校教育自己診断について——各項目について改善は見られるが、すべての学年で改善が見られるわけではなく、学校全体としての取組みが必要である。</p> <p>○授業アンケートについて——全体とした良好だが、年度の後半で行った2回目の結果に改善の必要性が見られた。学校全体としての取組みを考えていく。</p> <p>○学校経営計画について——学校協議会において、平成27年度学校経営計画及び学校評価が承認された。</p>

## 府立布施高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 ゆつくりとしつかりと学べる学校づくり	(1) 見える学力(教科科目の領域)の向上への取り組み ア 確かな学力の定着 イ 授業改善や研修を通じた授業力の向上 ウ ICTを活用した授業の充実と校務の効率化 エ 少人数展開・TTによるきめ細かな授業の継続 オ 生徒の授業評価・理解度の向上 (2) 見えない学力(教科科目以外の領域)の向上への取り組み ア 基本的生活習慣の確立 イ 中退、留年、長欠の防止(低学年次での対応に留意) ウ 読書活動の推進 エ 自尊感情(自己肯定感・自己有用感)の育成と人間関係づくり	(1) 見える学力(教科科目の領域)の向上への取り組み ア 生徒の学力に応じた学習内容を設定し、ICTなどを活用し、計画的に確かな学力を身に付けさせる。ゼロ時限を活用した基礎学力の育成を検討する。 イ 経験の少ない教員を中心に、個々の授業改善と校内外の研修等によりさらに授業力の向上を図る。特に校内研修の充実を図る。 ウ ICTを活用した授業増と校務のICT化をさらに推進する。教室にプロジェクターの設置を図り、ICT委員会により、ICTを活用した授業方法の研究や授業コンテンツの共有に努める。 エ 少人数展開・TTのきめ細かな授業を継続する。 オ 教員の授業力を計る授業アンケートと学校教育自己診断を実施し、授業改善につなげる。 (2) 見えない学力(教科科目以外の領域)の向上への取り組み ア 基本的生活習慣の確立 欠席・遅刻・早退・欠課(中抜け)の防止、規範意識の醸成・授業規律の確立(携帯使用、飲食、私語)学習習慣(出る、聴く、尋ねる)の形成を図る。 イ 中退、再履修(留年)、長欠の防止を図る。 ウ 図書館の利用を奨励し、読書活動や調べ学習の推進を図る。長期休業中の活用や文章を書く取り組みを行う。 エ あらゆる場面で自信や達成感を持てる指導に心がけ、同時にコミュニケーション力の育成と他者との豊かな人間関係づくりを図る。特にHRなど特別活動を通じて育成を図る。	(1) ウ ICTを活用する教員数や授業数 教員数(構成比) H26 35%→H27 50% オ 授業アンケートの活用 ・授業理解度 H26 85.5%→H27 90% オ 授業アンケートの活用 ・知識・技能が身に付いた H26 75.3%→H27 80% (2) イ 中退、再履修(留年)、長欠を各々20%低減する(目標)(滞留生を除く) 中退(人) H26 31 → H27 25 再履修(留年)(人) H26 30 →H27 24 長欠(30日以上欠席)(人) H26 121 → H27 97 ※滞留生(長欠者)の在籍確認 ウ オリエンテーションを通じて1年生全員の利用を図る。 ※学校協議会の意見提言 中退・留年・長欠、授業規律等の指導や取組みについて肯定的評価を得る。	(1) ア今年も1年1学期を、基礎学力の定着をめざした復習を中心とした授業を設定した。また、ICTを活用するなどして理解しやすい授業、生徒の主体的取組を意識した授業を行い、個々の学力の伸長をめざした。ゼロ時限を基礎学力の定着の講座とし、生徒を抽出して育成を図った。(◎) イ 全校で授業改善を意識し、初任者2名の公開授業などを通し、授業力向上に取組み、大教大スクールリーダーフォーラムで報告した。(◎) ウ プロジェクターや書画カメラなどを使い、理解しやすい授業に取組む教員が増え(60%の教員がICT機器使用経験あり)、ICT化が定着してきた。今後、コンテンツの蓄積や効果的な活用の研究を進めたい。(◎) エ 1年英教国をTT・少人数展開によるきめ細かい授業の継続、数学は後期から習熟度別授業展開を実施、基礎学力の定着を図った。外国人生徒への手厚い日本語指導も実施している。(◎) オ 授業アンケートと、学校教育自己診断を実施、分析した。(授業理解度:85.5→77.4%、知識技能が身に付いた75.3%→75.6%)基礎学力のばらつきもあり、引き続き、学力向上と授業改善に努める必要がある。(△) (2) ア遅刻欠席について、毎月集計をして個別に粘り強く指導を図り、一定の効果を上げているが、欠時ぎりぎりまで休む生徒も多く、さらに指導が必要である。(○) イ 長期欠席生徒を含む全生徒の在籍確認の指示もあり、滞留生徒などを徹底的に追跡し意思確認を行った。それ以外の、中退は30名で、昨年比1名減。再履修は6名で、昨年比24名減。長欠は91名で、昨年比6名減。(○) ウ 毎日、放課後図書館を開館し、読書活動の推進や生徒相談に活用しており、居場所としても活用。(◎) エ 今年度も外部講師によるキャリア教育や人間関係づくり、情報モラルのHRを実施するなど、工夫したHRを多く実施した。(◎) ※学校協議会に取組を報告し肯定的評価を得ている。
2 安全で安心な学校づくり	(1) 生徒に居場所が提供できるような安全で安心な学校への取り組み ア 健康安全教育の推進(生徒の健康増進と安全確保) イ 問題事象等への迅速で適切な対応 ウ 人権教育の推進(様々な人権課題への取り組み) エ 教育相談と配慮を要する生徒支援の充実 オ 教育環境及び施設設備の保全と充実 カ 家庭、地域との連携推進と開かれた学校づくり	ア 健康安全教育の推進 薬物、性感染症、喫煙、防犯防災、虐待、交通安全等、重要課題について防災訓練や健康HR等を通じて啓発を図る。特に喫煙については、禁煙の指導を強める。 イ 問題事象の防止に努め、発生時には適切な組織的対応を図る。 ウ 人権HRの充実を図り、生徒の人権意識を高める。教職員には校内研修等の実施により、人権問題への理解を深める。 エ 教育相談の充実と支援コーディネータを中心とした支援教育のための校内委員会活動を展開するとともに、高校生活支援カードの活用や、個別の教育支援計画の作成を行う。 オ 教育環境・施設設備の日常的点検を励行し、必要な保全と充実を図る。 カ 家庭、地域との連携として、保護者会の活動を活性化させる。中高連絡委員会を核にして中学校訪問による情報交換を充実させ、広報紙の定期的な発行・配布による広報活動、学校説明会の内容の充実を図る。 キ 年3回実施する学校協議会の充実を図る。 ク HPを充実させ、学校情報や行事の情報を発信するなど、充実した内容にする。	イ 懲戒件数低減(目標) H26 9件→H27 5件 ウ 学校教育自己診断 ・人権意識が高まる H26 67.0%→H27 目標70% エ 学校教育自己診断 ・先生に気軽に相談できる H26 76.8%→H27 目標80% カ 「布施だより」の発行 ク HPでの最新情報の発信 ※学校協議会の意見提言 健康・安全教育等の指導や取組みについて肯定的評価を得る。	ア 「薬物・喫煙防止」「性感染症・命について」「交通安全」「防災」の講習をHRで実施。(◎) イ 危機対応については、学年を中心に全校で協力する体制を整え、事後指導の対応に当たる。毎時間・放課後の巡回指導を継続し、喫煙防止や美化に努めている。懲戒事案は2件生起、粘り強い指導を継続したい。(○) ウ 個々の人権を尊重する態度の育成やライン等SNSに潜む個人情報の確保や人権配慮など、HRを通して人権意識を高める機会をもった。アンケート(人権意識が高まった。67.0%→63.8%)の結果は横ばい。(○) エ ケース会議や教育相談SCを通じて個別の教育支援計画の作成など、一人ひとりを支援する体制を展開。高校生活支援カードは、記入が不十分な場合が多く、今後の活用をめざしたい。(アンケート結果:相談できる76.8%→69.0%担任等との信頼関係の構築が課題)(△) オ 一部施設の老朽化が課題であるが、特別教室のエアコン設置など、施設設備の改善もされてきている。(◎) カ 中学校訪問は昨年なみの47校を訪問し情報共有と広報活動を実施。毎月広報紙を発行し、中学校等に配布し情報提供した。(◎) キ 学校協議会を3回実施し、意見提言を伺った。(◎) ク HPを月3回程度更新し、常に最新の情報を提供。(◎) ※学校協議会に取組を報告し肯定的評価を得ている。
3 入ってよかった学校づくり	(1) 楽しく充実した高校生活を送り、入ってよかったと思える学校への取り組み ア キャリア教育・進路指導の充実 イ 志学の実施 ウ 特別活動と行事の充実 エ 部活動や生徒会活動の活性化(加入率の向上)	ア キャリア教育・進路指導の充実 進学・就職希望者に対する進路指導の早期からの充実を図り、希望者の卒業時の進路決定率を高める。 ハローワークや外部機関と連携を深め、計画的な進路指導を行う。 イ 志学について、内容の充実を図る。地域清掃は核になる行事として定着を図る。 ウ 特別活動や諸行事について、前年度の総括等を基により一層充実を図り、学校生活の満足度を高める。 エ 部活動や生徒会活動の活性化を図り、主体的な取組や自尊感情高揚の機会と生徒を育成する。 オ 授業アンケート、学校教育自己診断、生活実態調査を実施し、結果を学校運営に反映させる。	ア 相談件数や各学年向けガイダンス実施件数 就職希望者・進学希望者の進路決定率 目標:80%以上 ウ 学校教育自己診断 ・行事が工夫されている H26 78.6%→H27 目標80% エ 部活動の活動状況検証 加入率30%台(目標) オ 生活実態調査の活用 ・学校へ行くのが楽しい H26 78.4%→ H27 80%超 ※学校協議会の意見提言 教育活動全般について肯定的評価を得る。	ア ハローワーク担当者の説明会、講演会を定期的実施。地元中小企業経営者の講話や懇談を実施するなど、早期からのキャリア教育に取組んだ。就職希望者15名中12名が内定するなど、就職・進学希望者の決定率も、90%→80%と高い率を維持している。(○) イ 志学として1年全員が地域清掃を実施。生徒会も学校周辺の自主的清掃活動に取組んだ。(◎) ウ HRや総合の時間を活用し、各学年とも独自の行事を実施。文化祭や体育祭も生徒数減だが、工夫し盛り上げている。(行事が工夫されている:78.6→69.0%)(△) エ 部活動の参加者数は横ばいで加入率20%台だが、バスケ、トボール、バドミントン、卓球部など活発に活動している。(△) イ 生徒会活動で、生徒の意見を生かした行事を企画するなど、主体的な活発な活動がみられる。(◎) オ 学校の授業や行事の改善がアンケート結果の数値の向上にはあまり結びついていないが、引き続き楽しい学校生活を送れるよう工夫したい。保護者の理解や学校行事への参加を呼びかけ、保護者会とともに協力する工夫が求められる(△)(学校に行くのが楽しい:78.4%→66.0%) ※学校協議会で、概ね指導の取組みを評価していただいているが、より学校の魅力を高め保護者の協力を得られるよう努めたい。